

露地オクラのスレ果発生軽減技術

ソルゴー植栽や防風ネット設置等の防風対策を講じることでオクラのスレ果発生を軽減できる

背景・目的

- ・オクラ産地において、収穫時期の強風や降雨後に発生するスレ果が大きな問題
- ・スレ果は、収穫後の果実に現れることが多く、圃場での選別が困難
- ・商品化率の向上を目的に、スレ果の発生要因を解明し、効率的な発生軽減技術を確立

成果の内容

- ・スレ果の発生要因は、降水量よりも風の影響が大きい
- ・防風対策により、スレ果発生率が低下し、7月および8月の商品化率が向上
- ・4月下旬に定植したオクラは、7月の商品収量が最も多く、防風対策を講じることで商品化率が向上し、販売金額が増加

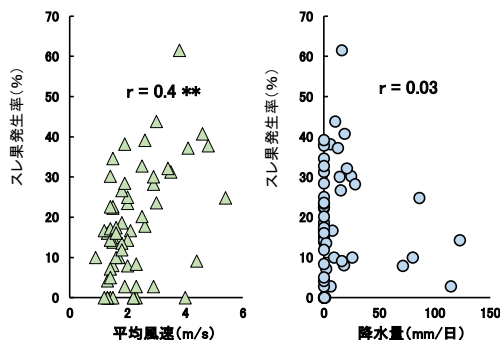


図1 収穫前の平均風速及び降水量とスレ果発生率
注) 期間: 平成30年6月11日～8月10日

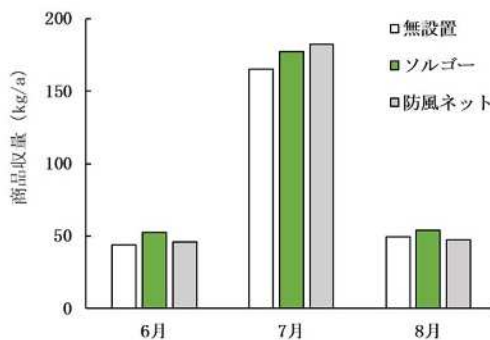


図2 時期別商品収量
注) オクラ定植期: 令和4年4月22日, 畝幅1.6m, 株間15cm, 2条植え(条間45cm)
収穫期間: 令和4年6月17日～8月9日

期待される効果

- スレ果発生軽減による所得向上
- 天敵温存植物としても利用されるソルゴーの活用により IPM技術の推進



図3 ソルゴーの植栽状況

- 普及対象・範囲
オクラ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
園芸作物部野菜研究室

表1 防風対策の違いにおけるオクラの商品収量及びスレ果重量発生率

| 試験区 | 総重量 (kg/a) | スレ果発生率(%) | | | 商品収量 (kg/a) | 商品化率(%) | | | | 販売金額 (千円/a) | |
|----------|---------------|-----------|------|-------|----------------|---------|------|------|------|----------------|-----|
| | | 全体 | 6月 | 7月 | | 8月 | 全体 | 6月 | 7月 | | 8月 |
| 無設置 | 424 | 25 a | 17 | 21 a | 41 a | 259 | 59 | 61 | 64 c | 53 b | 225 |
| ソルゴー | 432 | 19 b | 15 | 15 ab | 33 b | 283 | 65 | 70 | 66 b | 58 ab | 246 |
| 防風ネット | 394 | 13 b | 12 | 11 b | 27 c | 276 | 67 | 66 | 72 a | 64 a | 240 |
| 分散分析 | n.s. | ** | n.s. | ** | ** | n.s. | n.s. | n.s. | ** | ** | - |
| 単価(円/kg) | - | - | - | - | - | - | - | 975 | 887 | 706 | - |

注) **: 1%水準で有意差あり, n.s.: 有意差なし, 異なるアルファベット間は, TukeyのHSD検定により有意差あり, ソルゴー播種期: 令和4年4月25日